

## 「令和のとやま型教育研究委託事業」における読解力の結果分析に係わる講演会

8月6日(火)、『令和のとやま型教育研究委託事業』における読解力の結果分析に係わる講演会を行いました。富山国際大学 岩崎直哉先生を講師にお迎えしました。市内小中学校の先生方がオンライン、または、オンデマンド視聴で参加されました。

岩崎先生からは、「読み解く力の育成 ～そもそも『読む』とはどういうことか～」という演題でご講演いただきました。



オンラインでの講演会

### (1) 指導講話

#### ① 読むということ



岩崎先生

従来、いかに正確に情報を取り出すかということに重きが置かれていました。これからは、問いをもって読むこと、目的をもちもう一度読み直すことなど、子供がいかに文章に働きかけながら読むかということ、つまり、**対話的に読む**ことが求められています。

#### ② 文章を「対話的に読む」授業例（結論が書かれていない説明文の結論を考える）



岩崎先生

対話的に読むためには、書かれていることを確認する授業だけでなく、その先の**書かれていないことを読む授業**が大切です。

### 【1年教材「どうぶつの赤ちゃん」を高学年で扱う学習活動例】

書かれていないことを読む発問を行うことで、文章の読み直しが生まれる。



結論の一文を書いたらどのような一文になりますか。

ライオンとシマウマの赤ちゃんことが比べて書かれているな。

①強い動物ほど生まれたときは弱弱しくて成長が遅いです。



Aさん

弱い動物（草食動物）の赤ちゃんは、食べられないようにすぐにひとり立ちします。



Bさん

※「ライオンの赤ちゃんは自分で歩くことができないんだ」などと読んでいる（書かれていることを確認している）Aさん。教師の発問により、「比べて書かれているな」と事例の配列に気付き始めました。

他者の読みを「借りる」（他者と比較する）ことで、さらに文章との対話が行われ、自分の読みが深まる。



AさんとBさんの考えが似ているね。そんなこと、どこから分かったの？

ライオンの赤ちゃんのことは先、シマウマの赤ちゃんのことは後に書かれていました。だから、結論の一文はシマウマの赤ちゃんのことにしました。



Bさん

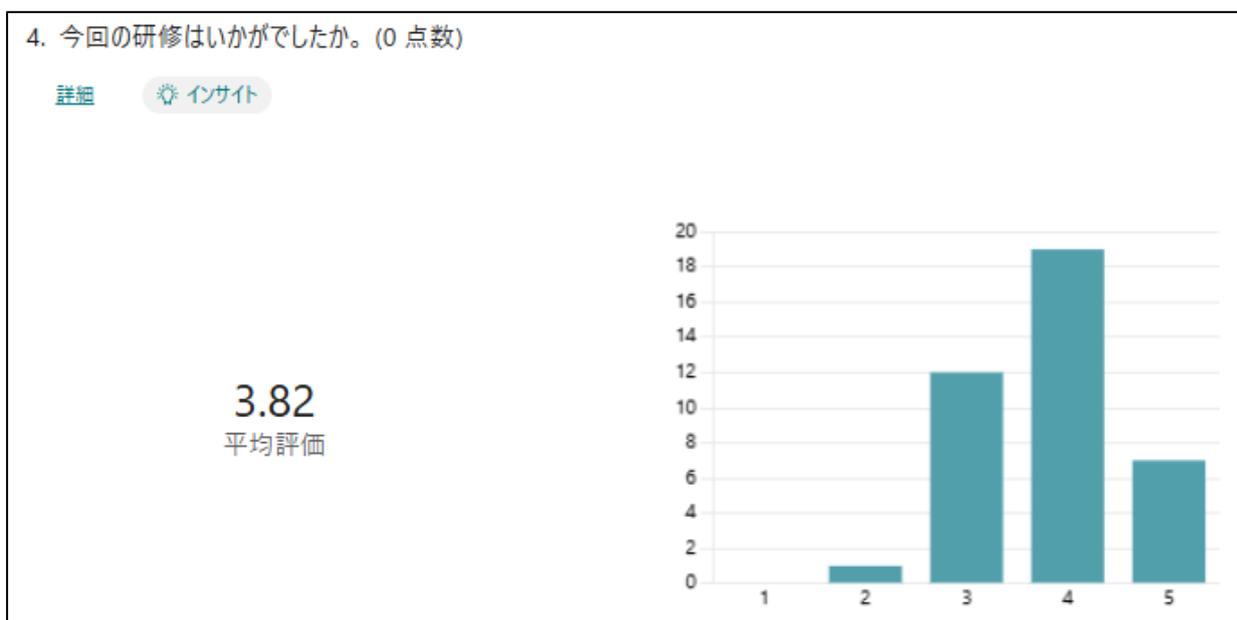
②ということは、この説明文は、ライオンの赤ちゃんよりシマウマの赤ちゃんの方がすごいぞってことを言いたいんじゃないかな。



Aさん

※Aさんは、Bさんの発言を受けて、事例順に意味があるのではないかと考え、①から②へと読みを深めました。他者の読みを「借りる」ことで、筆者の意図（書かれていないこと）を考えながら**対話的に読む**Aさん姿につながりました。

(2) 事後アンケートより (39名回答)



感想 (小学校教員)

岩崎先生のお話にあったように、国語科の「読むこと」の学習における「読む」とはどのようなことか、滑川市内で共通理解する必要があるように感じた(特に、確認するだけの読みではなく、筆者の意図について考える読みについて)。本研修の対象が、小学校では、5・6年担任、研究主任、教務主任だったが、視聴の対象が全学年でもよかったように思う。

子供たちが課題を出された時に、出題者の意図をくみ取っていないと感じることが多かったが、今回の研修で、対話的に読み解くというポイントが重要だと感じ、そのポイントをいかに普段の授業で実践できるかが子供たちの力につながると感じた。

分析については興味深かったです。具体的にどのような授業をしていけばよいのかを、もっと教えていただきたかった。友達の考えに対してどう思うのか、友達はどう考えているのかを皆で分析するような学習を進めていけばよいという解釈で大丈夫でしょうか?もっと授業の中で意見を交換したり架空のAさんを登場させたりして皆で考える・・・ということをする必要があるのかと思いましたが、それが本当に身に付けさせなくてはいけない必要な読み解く力なのかな?と問題そのものについて疑問が残りました。問題を読むというよりは、「空気を読む、相手の気持ちを想像する」ということは、情緒的な力も相まって、国語の読む力とは違う面も含まれるのではないかと、そうすると、圧倒的にその力が生まれながらに足りない児童もいるなと感じました。私の偏見かもしれませんが・・・。

読む力=文章を理解するという意識でしたが、文章以外の部分を読み取ることが大切だと思いました。また、その際に、学級集団の中で他児童の発言をもとに学級全体に話を広げていくなど対話形式で読み解いていくことが大切だと思った。

時間がないので難しいのですが、具体的な授業例を数多く提示をしていただけると助かり

ます。理科のテストの話は共感するところがあり、やはり国語だけでなく、全ての教科や内容で、読み解くことを意識することの大切さを改めて感じました。岩崎先生にはいつも今日的な課題を明確にするご講話をいただき、本当にありがとうございます。これからも誤答を意識した授業改革を考えていきたいと思います。

対話的な活動 多面的・多角的な見方・考え方が発揮されるような活動を仕組むために、文中の内容の読み取りを促すことや 発言者より聞き手への着目することについてのお話がとても印象に残りもう少し聞きたくなりました。ありがとうございました。

日頃の授業の中でやっていることが、説明文等で「書かれていないこと」をみんなで考えて読み取ることと位置づけられると分かりました。「書かれていること」と「書かれていないこと」を読み取ると意識化しながら、授業を仕組みたいと思いました。ありがとうございました。

#### 感想（中学校教員）

国語科以外では、あまり授業や普段の生徒への指導の中でストレートに活用できるような内容はなかった。その分、純粋に知識や教養を広げられるような機会にはなっていたと思う。致し方ない事情があったかもしれないが、オンラインの限界を感じることもあった。できれば、ライブでひざを突き合わせながら忌憚なく質問や議論をすることができたらなおよかった。このような機会を提供していただき、ありがとうございました。

問題の問い方や、教師側の問いかけの仕方により、生徒の認識が大きく変わってしまう場合もあることがわかった。特に理科のメダカに関する問題での生徒の解答の方法についてはそれがより実感できた。生徒には多角的・多面的に捉えられる場面も今後も想定されるので自分でもしっかり認識しておく必要があると感じた。